<22>

挿絵/橋本 著者/牟田 泰三 礼子

4歳11カ月

ダンゴムシ お庭にアリさんがいた。捉まえて手のひらにのせると、歩き回ってすぐ落ちそうになる。

ジイジ「あまり強くつまむとアリさんは潰れそうになるから優しくつまもうね」 そこでアヤはつまんでまた手のひらに戻す。

それでも次々と繰り返している。

ジイジ「もうアリさんも疲れているからお庭に返してあげようね」

「嫌だ」

ジイジ「もうお腹もすいているし、お家でママが待っているかも知れないよ。返してあげよう」

「じゃあ、ダンゴムシにする」

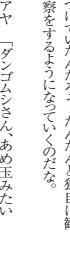
やっとアリさんは逃がしてもらえてヤレヤレ。でも、

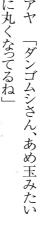
ジイジ「ダンゴムシはこのあたりにはいないよ」

「いるよ。この植木鉢の木の根っこにいたのを見たよ」

植木鉢をくるりとまわすと、あつ、ほんとにいた。

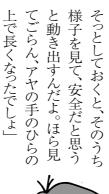
つけていたんだろう。だんだんと独自に観 いつの間にこんなところでダンゴムシを見 「ジイジ、こんなこと知らないの」



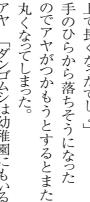


ジイジ「敵に襲われると丸く

なって身を守るんだよ。でも、



72



「ダンゴムシは幼稚園にもいるよ」

ジイジ「そうだったの」 「○○ちゃん(男の子)がね、ダンゴムシつぶした」

ジイジ「えっ、それはいけないね。ダンゴムシが痛い痛いって言うでしょ」 アヤはダンゴムシをつかんだままお部屋に持ち込んだ。ダンゴムシを床に置くと、どんど 「アヤは見ないようにしたの」

ん這い回って、隅っこに逃げ込みそう。

ジイジ「いいこと教えてあげようか。つるつるのおわんに入れるといいんだよ」

這い出そうとしても、おわんの斜面で滑って這い出せない。これでダンゴムシをつまんで戻さ 台所の戸棚から味噌汁などをつぐおわんを取り出してダンゴムシを入れると、ダンゴムシが なくてもよくなった。

ジイジ「でも、あまり長い間このままにしておくとダンゴムシさん、お腹をすかして死んでし まうかも知れないから帰してあげようね」

ジイジへのお便り

のを愛でる心が育つ大切な時期である」です。

え21」の中で、 訂正とおわび

誤りがありました。「ジイジの気付き」の内容は、

関係者の皆さまにご迷惑をお掛けしたことを

正しくは

) 4面の「心のめば

プレスネット年末年始号(20)

8年12月25日配布開始)

weekly@pressnet.co.jp 「心のめばえ」係へ エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。

連載中の「心のめばえ」シリーズは、牟田のホームページでも読むことができます。https://home.hiroshima-u.ac.jp/mutata/